

令和5年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	春日市		代表者名	春日市長 井上澄和	
担当者部署	経営企画部		連絡先電話番号	092-584-1118	
担当者役職	主査	担当者氏名	持田 誠一	連絡先E-mail	*****
住所	816-8501 福岡県春日市原町3丁目1番地5				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	山澤 浩幸
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	市職員として長年情報政策に携わられた経験を基に、本市が自治体情報システムの標準化・共通化を進めるに当たって留意すべき点について、的確なアドバイスをいただいた。
アドバイザーへの要望事項	特になし

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

3-1. 対応日・時間	派遣日予定日（応募依頼より）	支援内容（応募依頼より）	期日・支援内容の変更あり	WEBでの手続き日	受付番号
	2023年9月29日	支援・助言	有	2023年10月3日	941
	実施した派遣日	実施した支援内容	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	2023年10月6日	支援・助言	14時00分	15時00分	0
				活動時間（分）	60

4. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可	https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/
------	---------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	人数
	職員	2人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	・MJ+との文字同定作業における委託の必要性 ・ガバメントクラウド利用時のセキュリティ対策 ・ガバメントクラウドにおけるディザスタリカバリ環境	
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	標準化移行の準備に当たり、なすべきことを把握する。	
アドバイザーに支援を受けた内容（具体的にご記入下さい）	・国の文字同定支援ツールを利用すれば、現段階で委託による同定作業は不要と思われる。 ・ガバメントクラウドにおけるセキュリティは、共同利用方式であれば、国とベンダに任せる形でいだろう。	
支援を受け改善又は解決された内容（具体的にご記入下さい）	・標準化移行の準備に当たり早急に対応すべき事項を把握できた。	

具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	特になし	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるもののリストより選択下さい	④予算以外で、今後取組む事項がある
事業の最終的な目指す姿	標準準拠システムへ円滑に移行し、システムの安定稼働を図ること。	

なお、〈その他〉を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

キテクチャ、システム構成及びコストに大きな影響を与えるために重要な要素となる。

ガバメントクラウドでは4つのDRのパターンを定義しており、基本的にはこのパターンに従い、コスト効果の高いパターンを選択する。4つのDRのパターンは、図 6-2 に示す。

レベル	RPO/RTO	パターン	概要	構成パターン
災害想定なし	n/a	なし	被災時バックアップ・復旧計画を持たない	n/a
広域災害想定なし	n/a	マルチゾーン	冗長性を確保したあるゾーン障害を想定し、同一本番リージョン内の複数リージョンへのレプリケーションやアプリケーションの冗長化	本番リージョン
広域災害想定あり	Level 1 RPO: 数秒~日次 RTO: 数時間以内~2時間	バックアップ	データアプリケーションを本番リージョンとは別の冗長リージョンにバックアップし、本番リージョン復旧後に本番リージョンでの業務復旧を目標とする(此リージョンはバックアップのみ)	本番リージョン 冗長リージョン
	Level 2 RPO: 数秒以内も可能 RTO: 数分~数時間以内	ウォームスタンバイ	常に冗長リージョンで本番環境の同等パフォーマンスを維持する。障害発生時に迅速に切り替え可能。アプリケーションは本番リージョンにのみ実行し、アプリケーションは冗長リージョンにバックアップされる。本番リージョン障害時に冗長リージョンに切り替える。アプリケーションをバックアップから復旧、もしくは冗長リージョンで実行し復旧させる	本番リージョン 冗長リージョン
	Level 3 RPO: 数秒以内も可能 RTO: 数秒以内	アクティブ-アクティブ	地理的に離れたリージョンで構成されており、複数のリージョンで常時システムを稼働している。復旧時は、ネットワークの障害を利用して、冗長リージョンにトラフィックをルーティングして処理。データはサービス障害やアップデートで同期を行う	本番リージョン 冗長リージョン

図 6-2 DR環境の構成パターン⁹

DR環境の構成は、各自治体がシステムや各自治体の状況を踏まえて検討し決定するものであり、ガバメントクラウド側で指定するものではないが、検討の参考として、以下に構成パターン選択の例を示す。

- 職員向けシステムや、一部地域の住民向けサービスは、「マルチゾーンパターン」か「バックアップパターン」
- 住民向けサービスのうち、停止すると住民生活に影響のあるもののみ「ウォームスタンバイパターン」か「アクティブ-アクティブパターン」

※ 各CSRにおける具体的な実施方法は、各CSRマニュアルを参照する